

授業科目名	理学療法概論Ⅰ	授業形態	講義	配当学期	1年（前期）
担当教員名	落合 慶之	単位数	1単位	時間数	30時間
授業概要 学習目標	<p>〔授業概要〕</p> <p>理学療法の定義と歴史的背景、現在の日本における理学療法の位置づけ、特に保健・医療・福祉、今後拡大が期待される職域を含めリハビリテーションの中での理学療法の位置および役割、課題と展望などを全体的に学ぶ。</p> <p>〔学習目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法士の役割について説明ができる。 2. リハビリテーションと理学療法の違いについて説明できる。 3. 自身が興味のある領域についてまとめることができる。 4. 理学療法士に求められる人間性・倫理観について説明できる。 5. 理学療法におけるリスクマネジメントについて説明できる。 6. 解剖学・生理学・運動学と理学療法の関係について説明できる。 7. EBPTの定義について説明できる。 8. 理学療法士の臨床推論プロセスについて説明できる。 9. ICFの用語について説明できる。 10. 理学療法の手段について説明できる。 				
授業回数	授業内容				
第 1 回	オリエンテーション・理学療法の定義： 理学療法とは、理学療法士とは、理学療法士の役割				
第 2 回	理学療法の背景： 理学療法の歴史・法律、リハビリテーションと理学療法の関係				
第 3 回	理学療法士の活動領域： 医療・福祉・保健・スポーツ・教育・研究				
第 4 回	医療者に求められる資質： 医療者の立場、理学療法士に求められる人間性・倫理観、ハラスメント				
第 5 回	理学療法の安全管理： 医療事故・医療過誤、リスクマネジメント、個人情報保護				
第 6 回	理学療法士に必要な基礎医学： 解剖学・生理学・運動学と理学療法				
第 7 回	理学療法士教育・研究： カリキュラム、臨床実習、OSCE、理学療法士と研究、EBPT				
第 8 回	理学療法の過程： 臨床推論（Clinical Reasoning）、Shared Decision Making				
第 9 回	理学療法と疾病・障害： ICD（国際疾病分類）、ICF（国際生活機能分類）				
第 10 回	理学療法の手段： 運動療法、物理療法、補装具療法、環境調整、ADL練習				
第 11 回	運動器疾患に対する理学療法				
第 12 回	脳血管疾患に対する理学療法				
第 13 回	内部疾患に対する理学療法				
第 14 回	スポーツ理学療法				
第 15 回	特別支援教育について				
評価方法	小テスト（5%×10回） レポート（10%×5回）				
教科書 参考図書	〔教科書〕 「概説理学療法 第2版」文光堂				
履修上の 留意点	積極的に授業に取り組んで下さい。				
メッセージ	特になし				